

# 特別講演会

演題「助成出版と大学出版部の役目」  
 京都大学学術出版会事務局長  
 小野 利家氏



はじめに京都大学学術出版会の設立からの経緯について話された後、現在大部分を文部省の助成を受け年間40点程度の書籍出版をしており、総売上の20%を助成出版で占めている、大学出版部として全国的にも特異的な大学の一つであり、これも大学の持つ知的財産であるのだらうとの前置きがあった。

次いで、全国の大学出版協会に刊行助成部があり、民間からの助成を受けて商業ベースに乗りにくい学術図書を刊行する援助も以前にはあった。例えば、日本生命財団からの4000万円など。しかし、昨今の経済情勢の厳しい中で科学研究費による助成の率が年々大半を占めるようになってきているのが現状である。国立大学などは大学の講演会などに依存しているところもある。

文部（科学）省の科学研究費総額約1000億円のうち出版助成に26億円、この中には学会誌など定期刊行物、研究公開促進費も含むので、正味の学術出版物には6億円だけで、それを26大学出版会も加わった出版社が助成金を利用して出版活動を行っている。

研究の一次成果として、学術図書「助成出版のすすめ」のこともあって、科研切りよの美態調査を行ったこともある。学術出版費6億円で年間400点の書籍が発行されているので一冊あたり150万円の補助がある計算である。部門別では人文系が約200点、全体の半数である。しかし採択率70%は社会、理工、生物農学などほとんど変わらない仕組みになっているようだ。そのうち大学出版会が頂いているのは全体の12、3%位、26大学のうち14大学しか利用していない。一般出版社によっては7、8000万円獲得しているところもある。利用していない理由の主なものとしては、先生への学術の一次成果として積極的働きかけがないこと、先生方が申請に際して煩雑な書類に不慣れであるなどであって、流れとしては20%を大学出版会関係で獲得できる方

OMUPが充足して1年が経ちました。今回は、総会の後行われた講演会にて、「助成出版と大学出版部」と題して京都大学学術出版会事務局長の小野氏にお話を伺いました。OMUPの今後の活動を考える上で、多くの示唆に富んだ内容でした。

向性もある。東大出版会は全体売り上げの3、4%を科研費に依存しているが、4割以上を占めている大学は6、売り上げの20%以上を占めている大学は全国に4つある。市販性のあるものが学術の第1次出版物はもっと大学出版会に行くべきだと思う。各大学出版会としてはそこそこの頑張りをした上で大学のカラーを発揮したらいいのではないかと。

その他、長年関与してきた者として文部省科学研究費での援助の得易いものとして、博士論文をベースにしたもの、科研費をもらった研究、競争相手の少ない分野等、いずれにしても学術刊行として評価されるべきものが高い採択率になっているようだ。

以上が講演の要約であるが、具体的に申請計画を持つ参加者もあって、活発な質疑応答が交わされ、OMUPも積極的な協力をするによって、大学の知的財産蓄積に寄与することを表明し、有意義な講演会を閉じた。

(文責：足立泰二)

OMUPユニヴァ  
シリーズついに刊行  
ついに、OMUPユニヴァシリーズ第一弾が刊行されました。OMUPの独自企画シリーズとして、OMUPのみならず、関係者も集まっています。続編が期待されています。出版ご希望の方は、足立までご連絡ください。



右：懇親会で歓談の様子

## 第2回OMUPサロンのお誘い

日時：6月21日（金）PM5：00～7：00  
 場所：河内ワインの館（近鉄南大線「駒ヶ谷」駅下車徒歩7分）  
 会費：各種ワインの試飲、軽食および取れたて河内ブドウのお土産を含め、¥3,000

去る4月22日、我が大阪公立大学共同出版会（OMUP）の会員総会とも言える評議員総会が開催され、平成13年度決算案、平成14年度予算案を中心に承認された。議題の審議内容は概略以下であった。

総会の内容  
 一、平成13年度事業内容の報告と決算案の承認  
 二、平成14年度事業予算案の承認

## 第二回評議員会総会、特別講演会、懇親会、盛会に終わる

三、常務理事を任期中途で小股憲明氏から三田朝義氏へ変更（公務多忙のため）。理事会承認事項の報告、四、活動計画（会員募集、増資、出版の促進）について  
 総会終了後、特別講演会が催された。京都大学学術出版会から事務局長・小野利家氏をお招きし、「助成出版と大学出版部」をテーマとした講演を聞き、さらにその後、学術交流会館ロビーではOMUP編集長金井一弘氏、司会で懇親会が行われ、会員相互の親睦を図られた。既刊本は展示・販売、現在進行中の独自企画の紹介、MUPユニヴァシリーズの本展覧会なども展示されるなど、みなさんに関心を集めた。出版物の形になったものを手にとって見る事で、OMUPの活動を身近に感じることができたようだ。和やかな内にOMUP設立一周年を祝ってスピーチが交わされたほか、出版計画その他貴重な情報交換の場となった。

## 平成13年度事業決算及び平成14年度事業予算

収入の部	平成13年度予算	平成13年度決算	平成14年度予算
前年度繰越金			1,408,944
出版料（著者から）	4,800,000	2,135,050	4,800,000
印刷（製本料80%）		1,525,000	
宣伝・販売料10%		127,050	
事務手続料10%		483,000	
共同出版基金			500,000
出資金（1口10,000円）	1,500,000	1,830,000	2,000,000
公告料	0	2,000	4,000
利息	0	302	500
合計	6,300,000	3,967,352	6,713,444

支出の部	平成13年度予算	平成13年度決算	平成14年度予算
1 事務費用			50,000
(1) 交通費	50,000	0	10,429
(2) 通信費	50,000	10,429	20,000
(3) 消耗品費	20,000	46,581	20,000
(4) 備品費	0	4,000	50,000
(5) 出張費	30,000	0	30,000
(6) 会議費	10,000	95,804	10,000
(7) 調査研究費	10,000	30,000	10,000
(8) 広報・広告費	200,000	97,289	50,000
(9) 渉外費	350,000	13,125	50,000
(10) 光熱水費	30,000	0	10,000
(11) 業務委託費		300,000	300,000
(12) 振込支払料		1,680	2,000
小計	750,000	598,908	602,000
2 直接出版関係費用			3,840,000
(1) 製造費	3,840,000	1,727,000	3,840,000
(2) 運送・発送費	30,000	21,000	30,000
(3) 編集デザイン料		211,500	480,000
小計	3,870,000	1,959,500	4,350,000
次年度繰越金	1,680,000	1,408,944	1,761,444
合計	4,800,000	3,967,352	6,713,444

## 『OMUPユニヴァシリーズ 農学生命科学へのいざない』 OMUPユニヴァ編集部編

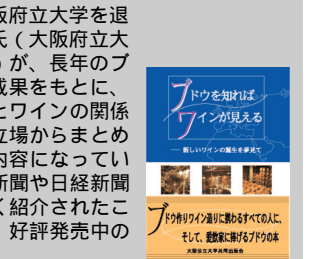
かねてよりお知らせしていたOMUP独自企画シリーズがついに出版！OMUPユニヴァシリーズと銘打って出版された第1弾、『OMUPユニヴァシリーズ 農学生命科学へのいざない』です。大阪府立大学農学部、先端科学研究所の10名教授陣が、自らの学問体験を通じて学問の面白さを語る、高校生や大学生に向けての入門書です。今後のシリーズへの期待も高まるなど、こちらも現在好評発売中です。



## 新刊本紹介

## 『ブドウを知ればワインが見える』 中川 昌一著

本著は、大阪府立大学を退官された同氏（大阪府立大学名誉教授）が、長年のブドウ栽培とワインの関係を栽培学の立場からまとめた意欲的な内容になっています。毎日新聞や日経新聞などに大きく紹介されたこともあって、好評発売中の注目作です。



今春にOMUPから新刊が続々出版されました。3月には中川昌一著の『ブドウを知ればワインが見える』が刊行され、4月にはOMUPユニヴァシリーズ第一弾『農学生命科学へのいざない』が出版の運びになりました。前者は幾つかの新聞で紹介されるなど、いずれも、販売が順調に推移しています。また、中川先生を囲んで第2回OMUPサロンが河内ワイナリーで開催されます。ご参加お待ちしております。詳細はちらしをご覧ください。

新刊続々出版、好評発売中！